

日本映画放送株式会社 第71番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和元年11月19日（火）16時～17時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 10名 / 出席委員数 10名
出席委員（順不同・敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・
田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 秋永 全徳
編成制作部 三宅 歩
番審担当 堤 靖芳
清水 明（記）

4. 議題

- (1) 審議事項：時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇「帰郷」
- (2) 報告事項：日本映画専門チャンネル 「3ヶ月連続企画月刊『鉄道ファン』Presents
思い出の列車たち」

5. 議題（1）

藤沢周平が老渡世人の姿を描いた傑作短編小説を原作とし、主演の仲代達矢をはじめとする豪華キャストで映像化した弊社製作オリジナル時代劇第20作「帰郷」。史上初となる8K撮影時代劇として、10月にフランスのカヌヌで開催された世界最大級の国際映像コンテンツ見本市・MIPCOMで、アジア作品初となるワールドプレミアに選出された。日本では11月に東京国際映画祭にて凱旋上映となった。2020年1月に全国劇場にて期間限定上映後、時代劇専門チャンネルにて2月に放送予定となっている。

【審議ポイント】

- 8K撮影時代劇「帰郷」の感想
- オリジナル時代劇第20作「帰郷」を経て、今後のオリジナル時代劇の方向性について

6. 議題（1）審議内容

- ・映像が美しく見応えがあり、今後時代劇は自然光を生かした表現に変わる予感がする。作品はシェイクスピア劇のような格調高さを醸し出していた。ラストは原作と違っていたが、どういう狙いであるラストにしたのか？
- ・中山道の緑から物語が始まり、杉の木の緑で終わっていたが、そうした映像美だけでなく、青々と存在する木々の緑と、今消え去ろうとする老人との対比が美しい作品でもある。4K テレビを普及させるにはこうした高画質の優良なオリジナルコンテンツが必要だ。
- ・8K を推進する NHK ですら 8K ドラマをまだ完成させていない時期に、時代劇専門チャンネルが 8K 時代劇を製作したことは画期的だ。出演者が地上波もできない豪華さで驚いた。
- ・死生観や贖罪といった『リア王』にも通じる人類共通のテーマがカンヌでも受け容れられたのだろう。今後は、旬な俳優をキャスティングした若々しい時代劇を見たい。
- ・今年 8 月終わりに木曾に行ったが、地元の人々がこの作品に参加したと熱く語り、完成を心待ちにしていた。ロケ隊と地元がよい関係を築いたことが分かり、印象的だった。
- ・冒頭の場面に無残なラストを想像したが、直後から世界観が一変し、意外と反省がない老人ぶりが人間らしく、不格好な立ち回りも見応えがあり、当初の予想をいい意味で裏切られた。専門チャンネル視聴者へのサービスやアプローチに何があるのか知りたい。
- ・8K 撮影したことが作品を補強する大きな要因となっていた。映画館のスクリーンと自宅のモニターで観たが、それぞれの楽しみ方があると再認識できた。
- ・地上波では老優の出番がないので、こうしたオリジナル時代劇ができたことは貴重だ。本作を見て、テレビドラマと映画の違いを語ることは最早無意味だと思った。作品のキーアートも、仲代の写真やロゴの渋い感じが相まって素晴らしいデザインとなっている。
- ・8K カメラで写し出された美しい風景は老渡世人の目を通した心象風景でもある。罪を重ねた人生を共に振り返ることで、見る者を贖罪の旅へと誘い、いつしか生死の狭間を主人公と一緒にさまよう。宿場の「故郷」に煉獄を、山々の向こうに天国を、と段階的に「死」を意識させられた。本作は死への道程が長くなった一方、災害等で身近に死を意識せざるを得なくなった 21 世紀にしか生まれ得なかった時代劇だ。
- ・シェイクスピア、『リア王』、贖罪、といった言葉が多くの委員から聞かれたが、監督としては当初からそうした意識を持っていたのか？ また、4K 撮影の作品はこれまでにあったが、8K 撮影に挑戦した理由と、ポストプロダクションについても知りたい。

各委員からの発言に対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・自然が雄大で美しいロケーションや豪華俳優陣の出演ということもあり、8K 撮影に挑戦した。カンヌの映像見本市・MIPCOM でも 8K をアピールできた。8K 撮影したデータを 4K にダウンコンバートして編集し、8K に戻して上映した。時代劇専門チャンネル視聴者で、劇場観覧希望者には、多数特別招待状をプレゼントしている。本作のような王道時代劇をやりつつ、今後は若手俳優をキャスティングするなど様々な取り組みをしていく。

・シェイクスピア、特に『リア王』や、『レ・ミゼラブル』も意識していた。様々なものを作品に込めたつもりだ。仲代本人は、本作が最後の主演作になるかもしれない、との熱い思いで演じていたと思う。86歳なので立ち回りや所作に大変苦勞されており、ラストの立ち回りを原作と変えて、原作者サイドの了解を得るなど演出的に工夫した。8K撮影だと暗い場所でも撮影できるので、蝋燭の明かりをキーライトにして撮影してみた。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル「3ヶ月連続企画月刊『鉄道ファン』Presents 思い出の列車たち」

日本映画専門チャンネルでは、思い出の列車たちが登場する作品の数々を、11月から3ヶ月にわたり放送する。本企画は昨年に初めて企画した「鉄道映画特集」がSNSを中心に大きな反響があったことを受けてのこと。今回は鉄道趣味誌として日本随一の発行部数を誇る月刊『鉄道ファン』編集部に作品選定を協力していただき、今まで見る機会がなかった幻の記録映画やチャンネル初登場作品などマニア垂涎のラインナップになった。同誌の12月号では名誉編集長・宮田寛之と、鉄道映画に造詣の深い関田克孝の、今回放送される作品に対する貴重なコメントも掲載してもらっている。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2020年2月18日15時より開催。